



抽選機を使用した競技で当たりを狙う



『スマスロケット5BT』のフリーズで得点が倍に



初日の競技終了後にはオリエンテーションを実施



大会は学遊連所属の学生主体で運営



決勝へと駒を進めた学生たち

今年初の大会コンセプトは「この夏、勝つのはヒキが強いヤツ」。ある程度の知識や経験も必要だった前回大会までとは違い、単純に“ヒキ”が強いチームが勝つというシンプルな戦いになった。実際に決勝へ駒を進めたチームの中には、ほぼ未経験の初心者も含まれていた。

大会は2日間で2つの競技を実施。その2競技の合計得点数が最も多いチームに、学生日本一の称号と奨学金が贈られる。

初日に行われた第1競技は、選手たちの宿泊先であるグランドパーク小樽（北海道小樽市）で開催された。競技名は「フーチンバトル・50%の壁を超えろ」。これは1stステージと2ndステージの合計でポイントを獲得する競技だ。

1stステージは、ホールでも使用されている抽選機を使用した継続率競技。95%、90%、80%、75%、65%の順に当たりを引き続けることができれば、1つクリアごとに100ポイントゲット。最大500ポイントをゲットできる。はずれを引いた時点で終了となり、成功回数×100ポイントが得点となる。

2ndステージは、大会特別仕様機として用意された『スマスロケット5BT』に移動。これはレバーオンの50%でフリーズ演出が発生するというもので、フリーズ発生でポイントが倍に。1stステージで0ポイントだったチームには、2ndステージでフリーズが引ければ1000ポイント獲得となる救済システムも採用。各チームの代表者が着席し、気持ちを込めたレバーオンで大量ポイント獲得を狙った。

どちらも成功で最大となる1000ポイントを獲得するチーム、逆にどちらも失敗して0ポイントと辛先悪いスタートを切るチームの姿もあった。

第一競技終了後は、同じ会場内で学遊連職員によるレクリエーションも開催。パチカラグッズを景品とした射的ゲームや豪華景品が当たるビンゴ大会が行われ、初日が幕を閉じた。

2日目の舞台となったのは「篠路ひまわり」。実機で行う差玉競技「Pストライアスロンバトル・頂まで翔け上がれ！」が行われた。この競技は「トライアスロン」という名前の通り、組み合わさった戦いで、1チームから2人、1stステージは「イブ早駆け競技」「ジでポーナスを2回引く」を獲得し、2ndステージは「早駆け競技」は、甘しで初当たりを引く。

続きはデジタルブックで
ご覧いただけます。

詳細はこちら▶

間にわたる熱き戦いの火蓋が切られた。

初心者でも戦える大会 2日間にわたる熱戦

全日本学生遊技連盟 日本一“ヒキ”が強い学生は誰だ 「PS:JAPAN 2026」決勝大会

全日本学生遊技連盟（学遊連）が主催する「PS:JAPAN 2026」決勝大会が9月7日から8日にかけて開催された。今大会の決勝の舞台は北海道。予選大会を勝ち抜いた若きプレイヤーたちが、北海道の地に足を踏み入れた。

「PS:JAPAN」は「健全な遊技方法を理解した『将来的なユーザーの創出』」を目的に、2023年から毎年開催されている学生向けのパチンコ・パチスロ大会。今回で4回目の開催となる。

予選は8月3日から行われ、全国を4ブロックに分けて開催された「全国ブロック予選」、東京と大阪で行われた大規模予選「東西大型予選」、パチンコ・パチスロのスマホアプリ「スロパチスピリット」内で行われた「特別コラボ予選」という3つの予選に1553組5144人が参加。優勝チームには一人あたり111万円の返済不要の奨学金を進呈する。

この3つの予選を突破した23チーム約80人が、決勝の舞台・北海道に集結。2日



初日の舞台はグランドパーク小樽